

川崎市とNECとの「デジタル技術を活用した防災まちづくりに関する協定」

協定の目的及び具体的取組

1 協定の目的

衛星SAR画像を用いた変動モニタリングの活用等により、市民の安全・安心に直結する災害に強いまちづくりに寄与することを目的とする。

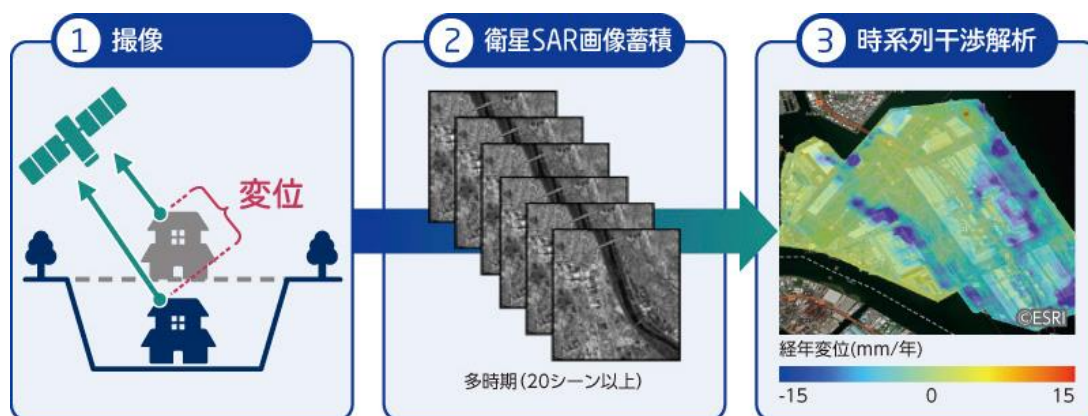
2 具体的取組

全国自治体初となるデジタル技術を活用した防災まちづくり「川崎モデル」の構築

「川崎モデル構築」に向けた3つの取組

①衛星SARによる継続的な崖の変動観測の実用化

- ・衛星SAR画像を活用した崖の観測手法を新たに確立
- ・観測データの公開に向けた諸課題を協力して解決。崖の状態の「見える化」を推進



地盤の変動観測事例（NEC 提供）

②先進技術等を組み合わせた効果的なモニタリングに向けた研究の実施

- ・NECの持つ先進技術や市の持つ様々なデータをGIS上等で組み合わせることで、さらに効果的なモニタリング実施を目指し、共同での研究を推進

③災害発生時の衛星等による観測データ活用に関わる協力体制構築

- ・市内における大規模な災害の発生時等、NECが所有する衛星等により局所的かつ迅速に観測データの提供を受けることが可能。市内の被災状況をデジタルで客観的に把握し、復旧に向けた対応の検討等に活用



災害発生時の変化抽出事例（NEC 提供）